

平成 3 0 年度

中標津町総合教育会議議事録

平成30年度中標津町総合教育会議

1 日 時 平成31年2月12日（火） 13時00分～14時05分

2 場 所 中標津町役場庁議室

3 出席者

|           |         |
|-----------|---------|
| 町 長       | 西 村 穰   |
| 教 育 長     | 山 田 康 司 |
| 委 員       | 義 盛 幸 規 |
| 委 員       | 助 口 明   |
| 委 員       | 南 むつ子   |
| 教育部長      | 木 村 実   |
| 管理課長      | 石 垣 敏   |
| 総務係長      | 表 健 一   |
| 学校教育課長    | 本 間 義 昭 |
| 指導室長      | 柴 田 達 也 |
| 生涯学習課長    | 山 宮 克 彦 |
| 学校給食センター長 | 山 根 亮 一 |
| 農業高校事務長   | 加 藤 孝 志 |
| 書 記       | 林 喜美子   |

4 欠席者

|     |         |
|-----|---------|
| 委 員 | 青 山 幸 子 |
|-----|---------|

5 傍聴者 なし

6 議 事

- (1) 中標津町の小中一貫教育の取り組み
- (2) コミュニティ・スクールの取組
- (3) その他

## 1 開 会

### ○管理課長

本日は、お忙しいところ、お集まりいただき、有難うございます。  
ただいまから、平成 30 年度中標津町総合教育会議を開催いたします。  
ここで西村町長よりご挨拶申し上げます。

### ○西村町長

何かと忙しいところお集まりいただきまして大変ありがとうございます。  
2 月も大きなイベントであります、冬まつりが大変寒い中でありましたが、  
無事終了いたしまして、冬の大きな行事が終えたところでございます。  
周辺では、まだまだ開催される予定でありまして、気温もそこそこであり  
まして、良いお祭りになるというような話も伝わっています。  
さて、予算の方も、つい最近、来年度予算案のまとめがほぼ終わりまして、  
色んな事が起こる訳でございますが、小学校の中小の 100 年、東小は 50 年と  
いう節目の年にもなるというようなことでありますし、また学校も順次古く  
なっている部分から直しにかかるという話もきております。  
計根別では、保育所の方でありますけれども、預かり保育が無事始まりそ  
うで準備をしておりますし、また、農業高校の方も生徒さんが頑張って活躍  
しております。その影響もありまして入学者数も増えそうな感じであります  
ので、大変喜ばしいことでございます。併せまして体育館の改築等進めてい  
るような状況でございます。  
また、養護学校では、特別支援の方ですが、小中が始まるということで、  
そちらの方も充実されるということで、大変喜ばしいことでございます。  
人口が減っていく中で、中々学校等の運営も大変だろうと思いますが、将  
来に向けて、良い教育になるように、皆様のお力沿いを頂きながら進めたい  
と思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。以上です

### ○管理課長

それでは、早速、議事に入らせていただきますが、中標津町総合教育会議  
設置要綱第 4 条第 3 項の定めにより、これより町長が議長となり、進めさせ  
て頂きます。それでは西村町長お願いします。

### ○西村町長

それでは、はじめに議事に従いまして、中標津町の小中一貫教育の取組に  
つきまして、担当から説明をいたします。

## ○指導室長

中標津町小中一貫教育について説明致します。

小中一貫教育の導入の背景としましては、中学校区で不登校や問題行動が増加していること、小学校高学年から中学校にかけて学習意欲の低下があること、規範意識の低下、成長の早熟化などあげられていますけれども、中標津町においても同じようなことが言えると捉えております。

また、国も法律を改正し、これまで小学校の目標、中学校の目標と別々に示していたものを、義務教育の目標という形で1つに示すなど、義務教育9年間を一体的に捉えた教育の重要性を謳っております。そこで、中標津町では、中標津中学校、中標津小学校、丸山小学校を1つの学園、広陵中学校、中標津東小学校、俵橋小学校を1つの学園、そして義務教育学校として開校している計根別学園の3つの中学校区で、平成32年度から小中一貫教育を導入する予定で準備を進めているところです。

それでは、中標津町が目指す小中一貫教育の基本方針としまして、資料の2ページになります。基本的姿勢としましては、義務教育9年間で子どもたちを育てる。中学校区で一体となって子どもたちを育てる。保護者、地域と一体となって子どもたちを育てる。以上の3つの基本的姿勢を掲げて進めているところです。

期待できる効果は何かと申しますと、3つ挙げております。まずは生徒指導上の効果としまして、学習規律・生活規律を9年間見通して設定することで、中1ギャップの緩和、規範意識の高まり、自己肯定感やコミュニケーション能力の向上などの効果が期待できます。

それから学習指導上の効果としまして、教科等の系統性・連続性を踏まえた学習指導により、学習意欲の向上、学習習慣の定着、授業内容の理解度の向上などが挙げられます。

それからもうひとつ、教職員への効果としまして、小中一貫教育で共同して取り組むことにより、指導方法の改善意欲の向上、教科指導力や生徒指導力の向上などの効果が期待できると考えております。

資料3ページになります。それでは、9年間をどうやって捉えていくかということですが、まず発達の早期化に関わる現象、中1ギャップの課題等を踏まえながら4・3・2の学年の区切りをしていくことで捉えております。

小学校1年生から4年生までを1つの纏まりとして、ここを基礎基本期といたします。小学校5年生から中学校1年生を1つの纏まりとしまして、習熟・接続期、中学校2年、3年で充実・発展期ということで、このような発達段階を経て学習、生徒指導に努めていくということで取り組んでいく予定

であります。

取り組んでいく上で4つの繋がりを意識して教育活動を展開していくということですが、1つ目はまず目標をつなぐということです。

3つの中学校区で目指す子ども像を共有し、子どもたちの豊かな心と生き抜く力の育成を図るということです。これは既に中標津中学校区、広陵中学校区では平成31年度に向けて、校長先生同士が話し合って設定済みであります。

2つ目として学び・生活を繋ぐということです。教育課程の編成や指導形態などの工夫改善を図るということで、教科の系統性の整理ということで、広陵中学校区では、既に3年生から始まっている外国語活動に中学校の先生が授業に入って、乗入授業をして、系統性を持った授業を行っているところです。

3つ目としましては、心を繋ぐということで、これは子ども同士の心、そして教職員同士の心を繋ぐという2つの意味が込められています。

4つ目として、家庭・地域をつなぐということで、この後説明がありますがコミュニティ・スクール、地域学校協働活動の取組を充実させていくということです。

この4つのつながりを意識した教育活動を展開することで、目標に向かって取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上のことを纏めたのが、1枚めくって頂きまして、中標津町小中一貫教育全体構造図というところです。

中標津町の教育大綱の基本理念として、人が輝き歴史と文化を育むというものを掲げております。その基本理念に向かうために、一番下にある地域と共にある学校づくりコミュニティ・スクールと、学校を核とした地域づくりということで、地域学校協働活動、横のつながりを大切にしていきます。

その上で小中の縦のつながりということで小中一貫教育の推進、それぞれの学校では中学校区ごとの取組の推進、9年間を見通しためざす子ども像の設定、授業改善の実施。主に3つのことに取り組んでいきながら、基本理念に向かって進んでいけるのではないかとというふうに考えております。

隣のページです。中標津町の小中一貫教育として、保護者にもこのような取組みをしていきますという周知をしていく予定であります。これは保護者向けのパンフレットとして作成したものです。今、説明した内容を1枚に纏めたものとなっております。

次のページにいきます。どのように進めていくかと言いますと、中標津町教育力向上推進委員会というものを活用しながら、各学校で創意工夫して進めていくということです。これは平成29年7月に各学校に出しているロード

マップとなります。平成 32 年度に向けて 29 年度から準備を進めてきているところです。

さらにあと 1 年、31 年度はどうやって進めていくのかというのが、隣のページにあるものです。

教育力向上推進委員会を、来年度は 5 回開催する予定でいます。この 5 回の中で、各中学校区で 32 年度に向けた準備を進めていくということです。32 年度から導入するという事で、あと 1 年しか準備の期間がないのですが、各学校と連携しながら進めていきたいというふうに考えております。以上で説明は終わります。

### ○西村町長

説明が終わりましたので、ご意見を頂きながら協議していきたいと思えます。いかがでしょう。

### ○義盛委員

何点か質問なんですけれども、資料 2 ページの方なんですけど、基本方針の期待できる効果を各項目 5 点ずつ挙げていただいておりますけれども、例えば、この中でも掲げていない効果として、例えば、異学年 9 年間ある中のそれぞれの学年間の交流の活発さによって、存在感をアピールできるような効果も見受けられるのかなと思います。

中学校 3 年間というよりは、7 年生、8 年生、9 年生が低学年の面倒を見るだとか、そういった異学年、また 4 年生、5 年生、6 年生も色々関わってくると思うのですが、その関係性についても何か効果が見受けられるのではないかということを感じたのですが、そういうことは何か視野に入っていますか。

### ○指導室長

心の成長という面では、中学生が小学生と関わることで、自己有用感とか生まれることは確かだと思います。

今年度 30 年度ですけれども、中標津中学校区では、まずは生徒会が小学校の冬休みの学習会へ行きまして、少し交流ができたという話は伺っております。

また、広陵校区では合唱が盛んですので、まずは 6 年生が合唱コンクールをするべつとに観にいらっているということ、あとはスケート授業で靴ひも結びなども取り入れていこうという話も出ているところです。

**○義盛委員**

面白いですね。ありがとうございます。そういうのが視野に入っていれば特に結構なんですけれども。

それとですね、学習指導上の効果というので、ちょっと露骨だなと思うのが、4番目の各種学力調査の結果が向上します、ということで、これは無理やりなんじゃないかなと。どうしても5つ上げなければならないものなんじゃないでしょうか。

**○指導室長**

その5つ、数は全然拘っていないのですが、これは直ぐに効果が現れるとは考えておりません。

連携していく中で、まずはやはり生徒指導関係ですね。心が安定してくることで学力向上が点数にも表れてくるのではないかという事で、記載させていただいております。

**○義盛委員**

学力向上というのと、学力調査の結果の向上というのは、どうなのかなということだったのですが、学力調査の結果が向上するというのは、非常に明快ですよ。点数が上がるということですよね。

それをアピールすることの、学力向上だけでは分かりにくいということですか。

**○指導室長**

やはり数値で。

**○義盛委員**

目に見えるもので。

**○指導室長**

数値を図って効果と向上力として図っていくのが、目に見えて分かるものということで。

**○義盛委員**

そのようなアピールであれば結構です。併せてこういう資料には載せられないかもしれないであろう、デメリットというのは、どういうことが考えられますか？

### ○指導室長

デメリットですね。僕は計根別学園を経験しているのですが、先ず教職員の意識というものが、なかなか小学校と中学校でかみ合わない部分が、これは時間が掛かる可能性があるということです。

そこが基本となってくるので、そこが上手くいけばトントントンと進めて行けるのかなと考えております。

### ○教育長

もうひとつは、また新たなことをするのかということで、精神的な多忙感を抱える可能性はあるし、実際多忙になると思います。何年かは。ただそれを乗り越えれば、その後はぐんと楽になるというのが、他の先進地の一貫校を見れば明らかですので、今はちょっと辛くても頑張ろうよという意識を教職員に持って貰えたらとは考えています。

### ○義盛委員

そうですね。負担増はちょっと心配なところがあったので。それが習慣となっていなければ、解消されるものであれば、すごく前向きになっていたいただけるのかなと思うのと同時に、中1ギャップという言葉がなくなるのでしょうけれども、それが逆に先送りされて高1ギャップになっていくということはある得るものなんではないでしょうか。

### ○指導室長

高1ですね。

### ○義盛委員

環境が変わることによってということは、あり得ることなんだろうけど。

### ○指導室長

おそらく小中一貫することで、心の成長が一番見込まれ、現れて欲しいなということなんです。

心の成長があることで、生徒指導の問題も解消し、学力も向上していくのではないかと、心の安定があれば高校に行っても安定していけるのかなと、満たされていくのかなという思いはあります。



### ○義盛委員

成長の段階を乗り越えたところで、いわゆるギャップというものを乗り越える力を手に入れるということですね。なるほど。単純な先送りにはならないということは期待できますね。ありがとうございます。

### ○西村町長

よろしいですか。

### ○助口委員

小中一貫校、計根別学園みたく建てる時に、既に一貫校を目指して建てた場合は上手くいくような気がしますけど、例えば、校舎が別な小学校と中学校が一貫教育をする時に、先ほど言いました、先生方のコミュニケーションというか、認識の仕方が違うのは、他の地域では多分やっていると思うのだが、それを上手くいっているのかどうか。

### ○指導室長

教職員の交流ということで、今年度は指定事業をかなり受けていまして、中標津中学校で2つ、広陵中学校でも2つ受けています。

その中で集まる機会が増えたんです。研修会とか合同で行ったり、主要となる先生方が月1回会議を行って話し合いをしたり、先生方の交流も増えてはきていますので、だんだん意識は何人かずつですけれども、全体とはいえませんが。

### ○助口委員

同じところでも少しずつなんだから、それは離れていれば余計、それがちょっと不安というか。

### ○西村町長

よろしいですか。

### ○南委員

まず、今よく言われているのが子ども達が子どもらしい経験をしてこなかったということをよく言われるんですね。

子どもの時にする子どものことをやらない事がいっぱいあるということで、4番目に家庭、地域を繋ぐとありますけれども、1人の子どもに多くの人が関わって育て上げるという意味では、非常に良いことだと思うんですね。

それで、地域とか、細かく言えば、子ども会育成会だとか、高齢者集団とか、そういうものに対するアピールとか、やっていますか。

**○指導室長**

次のコミュニティ・スクールの説明に関わっては来るんですけども、学校運営委員会がそれぞれの学校で設置しておりまして、その中で、今年、町内会と連携した取組みということで、中標津小学校の方で一斉清掃、ゴミ拾いですね。是非子ども達も参加させたいということで、町内会と一緒に活動させたいということで色々動いて下さって、町内会の会長さんにもそれぞれ連絡を取って頂きながら進めてきたというところですけども、なかなか一気には子どもの参加人数が増えなかったという反省もあります。少しずつそういうふうな活動を続けていきながら、町内会、地域とも連携していけたらなというふうに考えております。

**○西村町長**

よろしいですか。その他どうでしょう。

**○義盛委員**

すみません、もう1点だけ。近々の課題で、ロードマップのページのところのいわゆる名称の決定ですよね。計根別学園の名称を決める時の経緯はあまり詳しく憶えてはいないんですけども、公募されるんでしょうか。これは。どういうふうに決める予定でしたかね。

**○指導室長**

そこはちょっとまだ。

**○義盛委員**

まだ、煮詰まっていない。

仮称はね、今2つ挙げられていますけれども。

**○指導室長**

例としては挙がっていますが、ちょっと時間をいただいて、来年1年かけて検討させてください。

**○義盛委員**

7月ということはあまり時間はないと思うので、考えなきゃいけないこと

かなと思います。

**○西村町長**

今年の7月。

**○義盛委員**

今年の7月ですね。半年ですね。因みに学校管理規則の整備なんていうのも、計根別学園を利用するような形で進められるものなのなんですかね。

この学園名決定の下に、学校管理規則の整備とあるのですが。

**○指導室長**

はい。

**○義盛委員**

結構忙しそうですね。ありがとうございます。

**○西村町長**

他いかがでしょう。

**○南委員**

さっき、どなたかから高1ギャップって言うんですか。そういう言葉が出ましたから、先日行われたN高の子どもたちの講義の中のアンケートで、非常に精神的に病んでるなというのが文章化で見えてきているのですね。

そういうのを防ぐために、中1ギャップとか、或いは中学生、小学生のうちにやっておかなきゃならないことの対策というのか、何かありますか。

**○指導室長**

今年度、中標津高校の方では連続して事故があった訳ですけども、その辺を踏まえて、自殺予防プログラムというものを、道の方から指定されて、中標津中学校が指定されていたんですけども、その関係で北海道医療大学の富家先生っていう教授が、中標津高校と中標津農業高校にも来て頂いて、心の成長という部分で講話をしていただきました。

それにつきましては、来年度も是非続けて欲しいという高校側の希望もありますので、その辺も含めて心の成長という部分で進めていければと考えております。

**○南委員**

中学校でやるのは、ちょっと難しいですかね。

**○指導室長**

中学校の方でもストレス対処法とか、そういうものは保健の方でもやっておりますし、コミュニケーションという部分で、中標津中学校の方では、ソーシャルスキルトレーニングと言って、挨拶の仕方だとか、こういう言葉掛けをしよう、したら良いねとか、そういった授業も何時間か取り入れながら進めているところではあります。

**○西村町長**

よろしいですか？

**○南委員**

ありがとうございます

**○西村町長**

あと、どうでしょう。よろしいですか。それでは一旦、この件につきましては終了したいと思います。

続いて、コミュニティ・スクールの取組につきまして、説明をお願いします。

**○学校教育課長**

それでは、コミュニティ・スクールについてということで、カラー印刷した冊子になっているものをご覧ください。

コミュニティ・スクールは、地域住民が子どもに関する課題や目標を共有し、学校運営に参画する仕組みであります。学校と地域が力を合わせて、子どもの成長を支援します、というものです。

学校運営協議会の主な役割というものの、3つ掲げられておりまして、校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること、これが必須でございます。

その他、学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができること、そして、教職員の任用に関して、教育委員会に意見を出すことができることということで、この下に米印で学校運営の責任者は校長であり、学校運営協議会が校長に代わり学校運営を決定・実施するものではありませんというふうな注意書きがあります。

そして、次のページの学校運営協議会、コミュニティ・スクールとは、学

校と学校運営協議会と教育委員会の役割を説明したものを図面化したものになっております。

中標津町においては、平成 29 年度、4 月に中標津小学校、中標津中学校、計根別学園で、この学校運営協議会がスタートされまして、他の小学校、中学校でも平成 29 年度中にスタートし、平成 30 年度、各学校で次のような取り組みをしておりますということで、主な活動状況を表に纏めました。

まずひとつ目、学習活動への協力ということで、学校での先生の人材不足や課題など、学校側から協議会への要望などに基づいて、協議会委員の方々や地域の方の協力を得て実施しているものです。例えば、水泳授業、スケート授業、家庭科ミシンの使い方などの協力、総合的な学習の時間への協力、長期休業学習会への協力、学校図書館の整理や読み聞かせ、特別講師としての授業、学校行事への参加と協力、それぞれの学校で特色のあるものを行っております。

次に、協議会委員や地域、そして、他の団体と連携したイベントとか、行事ということで、カヌー体験の企画と運営をしております。

そして、ふれあいまつりでの店の出店、児童生徒との協力運営、休み時間の遊びの企画や運営、D o はぐ、避難所運営ゲームの企画実施、非難所体験学習の企画運営、そして、地域清掃活動、先ほどありました中標津小学校の地域清掃活動を行っております。

そして、この平成 30 年度、こういったものを行ってきたんですけれども、成果と課題ということでまとめました。成果として、各校で子どもたちのためにできることを考え、授業等の教育活動へ参加したり、コミュニティ・スクールとしてできることを考え実施したりすることができた。

保護者や地域の方が学校に関わることにより、子ども、教職員は勿論、学校運営協議会の方の満足の得られる活動となるものが多かった。

課題としては、学校運営協議会委員だけの活動とならないよう、保護者や地域にもコミュニティ・スクールについて周知していく必要がある。

学校間、特に小学校と中学校での取り組みの差が大きく、小中一貫教育を導入するにあたり、学校運営協議会を小中合同組織にするかどうか検討していく必要があるだろう。

次年度以降に向けて、平成 32 年度に、地域学校協働本部というものが設置されることもありまして、協働本部と各校の学校運営協議会をどのように繋いでいくか模索していくことが必要になるだろうということで、まとめさせてもらいました。以上で終わります。

## ○西村町長

それでは、説明が終わりましたので、協議していただきたいと思います。

## ○義盛委員

コミュニティ・スクールの取組みに対しては、当町は、他の地域よりも早めに舵取りをきっていると思うんですけども、それにしてもやはり平成 30 年度の成果と課題というところの課題に出てきましたように、地域の方のみならず、保護者そのものの方にも認知がどうしても足りないんですよね。

私自身も檀家さんを回っていてもコミュニティ・スクール、何それと言う方が圧倒的に多くて、私自身の力も足りないんですけども、何かこう抜本的な周知の、手段の、改め方はできないもんですかね。

今のところ、らいふまっぷであるとか、そういう広報誌などが中心となると思うんですが、何かアイディアはありますでしょうか？

## ○学校教育課長

だんだん各学校、小学校の方がこういった活動はしやすく、中学校の方がまだ活動が進んでいない状況なんですけれども、各小学校では、ホームページに載せるというのもひとつ。そして、お便りに少しずつコミュニティ・スクールとして、何をやっているのかというのを、活動状況を入れてって、保護者の皆にも見てもらえる情報を出していこうというのが、少しずつ各学校で出ています。

そして、会報みたいのを作りたいということで、やっている学校はあるんですけども、教育委員会での学校運営協議会の予算がついて無かったもので、そういった印刷関係も運営協議会の委員の、ボランティアというか、協力の下、数回、1 回から 2 回、会報は保護者宛に出しているっていうのも、今のところ、そういった周知の仕方をしています。

## ○義盛委員

僕が回っている所は、高齢者の方が多いので、なかなかどうしても縁が薄いというのがありますね。そしたら、それは僕の仕事ですね。

## ○教育長

よろしくお願いします。

## ○義盛委員

はい、頑張ります。

**○学校教育課長**

学校運営協議会が出てしまうと、段々とPTAとしての活動が、我々は何みしなくても良いんじゃないかという、だんだんとPTA離れというのか出てくるかなと、ある学校では行ってましたね。

こういった活動は良いことなのですが、PTAの人達をうまく使っていけたらなという話も出てました。

**○助口委員**

因みに学校運営協議会はPTAの役員も入っていますよね。

**○学校教育課長**

はい。

**○助口委員**

でも、役員だけですよね。

**○学校教育課長**

PTA会長や、副会長が代表として。

**○助口委員**

そしたら、一般の保護者がやってくれるなら何もしなくて良いかなという事になっちゃうってことですな。

それと、さっき言った学校便りで出しても子どもが出さないという場合もあるだろうし、親が見ないという場合もあるだろうし、すごい昔から難しい問題だと思うんですよね。

文章は出しててもちゃんと喋ってるかというのもあるでしょうし。何か上手く知らせる方法、自分達が近所の人には言えても、なかなか回って歩てまでは、宣伝っていう訳にはいかないのて。

**○南委員**

一部かもしれませんが、学校便りとして町内会回覧で回ってくるんですね。

だから、興味がある地域の方、子育て世代じゃない地域の方も目を通して下さるかなと思うので、できればもうちょっと大きな字で。

**○義盛委員**

僕もそう思います。

**○南委員**

見易いような。そういう行動をしているところがありますよね。今のところはね。

**○学校教育課長**

東小学校も単独で近所の学校区の町内会に対してチラシを作って配っているというの。学校だより以外に。

**○南委員**

学校の手伝いをしていただけないかという、下から出た言い方でアピールはしていますけども。

**○教育長**

簡単に言うと、広陵中学校は、昔からやっている古紙空ビン、あれが一番分かりやすい形ですね。に～ずの人達が全面協力してくれて、保護者も集まってくれて、地域の方々が皆、古紙空ビンを子どもたちのために取っておいてくれる。

それを集めに行った時に地域の人達と交流ができる、そういう無理のない形を少しずつ広げてくというか、あまり欲張ると逆に負担になるんですね。

そこを上手くコントロールしながら各学校でやって貰うのが、一番良いと思っています。

こうしなさい、あーしなさいよりも、各学校で考えて、自分の学校に合った形って何だろうというふうに、試行錯誤してもらうのが一番ですね。

東小学校では前に言ったようにお手伝いしてくれませんか。中標津小学校では町内会とタッグを組んでお祭りみたいのをやったりとか、色々それぞれで工夫が出てきていますので、これから先、楽しみかなというふうには思っています。

**○西村町長**

他、どうでしょう？

**○南委員**

一足飛びに色んなことをやってもあれですけど。



今、子どもたちもそうですけど、大人に対して働き方改革とか出てますよね。訴えてますよね。

学校によっては、地域の行事、例えば、税に対して標語だとか、絵だとか、北方領土に対する絵だとか、標語とか、そういうのを求めてくる民間団体があった時に、先生方、或いは学校が働き方改革でそこまではできないというのがあるのかどうか。これは教育長にちょっと聞きたいんです。

### ○山田教育長

あれ全部を相手にしてたら、教育課程もあったものではないのです。だから各学校で取捨選択をして、これはここの学校やるよ、これはここの学校やるよ、というふうになるべく何でもかんでも受けないような工夫はしてます。

あとは原則、教育課程で何かと取り換えれば良いんですが、そうでない場合は勝手に宿題で出すだとか、そういう様な形でやらないと、学校は手が回らないですね。

かといって、教育委員会にこれをお願いしますと来られた時点で、けんもほろろに断るわけにもいかないので、私としても、非常に何か陳情が来る度に学校も忙しいんですと、できる範囲で対応しますというように答えるようにしています。

### ○西村町長

他、いかがでしょう。どうですか。よろしいですか。

それでは用意した2点については、話をいただきました。全体を通じまして何かございましたら。その他の話題ってということでどうぞ。

### ○助口委員

先ほども言っていました農業高校、今回、受けてくれる人が多い。大変嬉しいんですが、ずっと昔から言っている住む所がないっていう問題はすごくあると思うんです。町だけで上手くできるものではないし、限りがあると思うんです。

先ほど、教育長が言ったように、農協とかと合同で力を出し合って何かできないかとか、そういうのは考えられるものなのかな。どうなのでしょう。寮みたいな施設というか。

### ○西村町長

農高の寮は、過去にあったんですけども、老朽化したのもあったんですけども、団体生活よりも個人でいたいという意見が多くなって、非常に入る方

が少なくなった。それで結果的には、なくなってしまったという現実がありますので。

またちょっと人数のこともあるのかもしれませんが。ストレートに寮というのは、なかなかいきにくい面があるのが実態でありまして、現在ですから、ほとんどの方が通ってらっしゃるというのが現実ですよ。

高校生のアパートっていうのは、実際どうなのか。下宿って方はいらっしゃるんですか。

**○山田教育長**

下宿はいない。

**○農業高校事務長**

下宿1人おります。羅臼出身の子が中標津町内に下宿しています。

**○助口委員**

計根別で下宿するところがなかなかないから。

**○西村町長**

計根別に自宅ある人以外で、アパートなり下宿っていうのは。

**○農業高校事務長**

いないですね。

**○助口委員**

いないよね。これはやっぱり難しいよね。

**○山田教育長**

計根別に下宿生を預かるようなところがあると良いんですけどね。

**○助口委員**

そうですね。

**○西村町長**

まったくないんですかね。そういったしても良いよって方もいらっしゃらないの。

**○助口委員**

多分聞いてもいない。

**○山田教育長**

聞いたら良いよって言う人が。

**○助口委員**

もしかしたら、いるかもしれません。それこそ、連合会の〇〇さんとかに聞いてみると、もしかしたら。それこそ、年配の方で子どもが育っちゃって部屋が空いてるからって言う人もいるのかな。もしいれば、それが一番いいんでしょうし。

**○山田教育長**

〇〇さんとか大きい家があるから。

**○助口委員**

そうですね。聞いてもいない可能性はありますよね

**○西村町長**

聞いてないかもしれませんね。

**○助口委員**

そういうのも聞くなり、方法を考えないと。もしかしたらもっと来たい人がいるのに、そういうところがなくて諦めちゃう人もいるかもしれないっていうのが。

**○山田教育長**

寮よりも下宿の方が安心っていえば安心。

**○助口委員**

寮は寮で食べるっていうのはあるけど、人がいる、見張っているという訳じゃないけど、誰かいると知らないじゃ、やっぱり違う。

**○南委員**

病気の時、心配ですよ。親としては。

**○助口委員**

今回みたいに、埼玉からくるのは、お母さんがたまたま来てくれて、そういう人に、例えば、教員住宅の空きがあったら、そういう人を入れるって訳にはいかないんでしょうか。教育長どうなんですか。

**○山田教育長**

いかななものですか。

**○教育部長**

教員住宅、先生方の異動に伴ってのことですので、固定的に物ごとを考えることは非常に難しいですね。今年は良くても来年異動。

**○助口委員**

そうですね。たまたま空きがあるけど。

**○教育部長**

空きがあるから利用していただいても。

**○助口委員**

先生が来るから出て行ってくれとは。

**○教育部長**

翌年、先生が来て、先生のための住宅と考えれば、なかなか難しいところではありますよね。

**○西村町長**

生徒たちに、親でもそうなんですけれども、例えば、聞いて本当は下宿希望なんだけれども、計根別に何かそういう施設があれば、入りたいんだよなということは聞いたことある？

**○助口委員**

ないかもしれないなあ。

**○農高事務長**

私が来てからはないです。

**○教育部長**

そもそも子どもたちの入学が非常に少なくなった時点で、農高の生徒の確保のための委員会を立ち上げて、色んな方策を考えている中では、下宿はどうかという検討としては、当然考えてきた経緯はあるけれども、実際入学して来られた方々に細かいアンケートまでは実施していないよね。

**○農高事務長**

してないです。

**○西村町長**

出だしに下宿もありますよっていうのがあれば、インパクトで、ああそうかと思う人もいるかもしれませんね。

**○助口委員**

あると思います。

**○総務係長**

別海高校と、農業高校と、どちらにしようかってなった時に、今年あたりは、別海に寮ができたんで、そちらを選んだ子がいるっていうのは聞きましたけど。

**○西村町長**

寮っていうのはどこが作ったの。

**○教育部長**

プラザホテル。

**○総務係長**

もともとプラザホテルがあったところを。

**○西村町長**

町が出しているだよね。確かね。

**○総務係長**

町と民間が出しているんじゃないですか。

**○教育部長**

良い物件があつて。

**○西村町長**

道立高校に町が支援し始めるとね、敵わないってところがある。隣近所  
そういうのが沢山あるので。

**○助口委員**

標茶みたく道立で寮も新しくなりましたし。

**○総務係長**

寮自体がどれぐらい入っているか、分からないですけど。

**○西村町長**

何人か入ってるというのは聞いたけど。

**○総務係長**

3～4人は入ってるみたいですけど。

**○西村町長**

ホテルだもんね。

**○山田教育長**

標津や別海みたいに大量のお金を道立高校に投入するというのは、いかが  
なものかっていうのもありますし、うちも結構お金は今でも入ってますので、  
これ以上、寮を建てて運営というのはなかなか。

やるとすれば、個人で寮みたいな感じのものを建てて農協の人も農高の人も  
受け入れるよっていう形になれば一番理想的なんですけど。

農高単独の寮っていうのは厳しいので、何かと共存するとか、そういうの  
ができれば良いなというのを私は思っているんですけど。

**○助口委員**

農協は、計根別の〇〇さんと手を組んで、建てるのは〇〇、管理するのは  
農協みたいな感じで女子職員を入れたりしているんですよね。

ああいうふうに地元の企業と、まあそんなにいい企業ばかりあるとは思え  
ないんですけど、そんなふうになれば。

○西村町長

アパートって計根別にあるの。それ以外にもあるんですか。

○助口委員

ないです。

○西村町長

それしかないの。

○助口委員

それが何棟かある。そういうのは。

○西村町長

農協の職員専用。

○助口委員

そうですね。

○西村町長

他に企業って、失礼かもしれないけど、そんなに多くないですからね。

○助口委員

そうですよね。

○山田教育長

計根別小学校の横にあるアパートなんかもみんな農協なんですか。

○助口委員

はい。

○西村町長

下宿だったら計根別の市街で引き受けてくれそうな方に打診してみるとい  
うのは面白いかもしれない。ありますよって紹介できるとね。ありがとうござ  
います。ほか何か。

## ○南委員

不登校の問題ですけれども、現在の相談のところでは狭くないですかね。かなり不登校の子が増えてきているのと、相談員の方も2名ですか、少ないかなって。もうちょっと何とかしてあげたいなと思ってるんですけど。

## ○学校教育課長

手狭といえば手狭な部分はあるんですけど、何とかやっている状況で、他にも空いている部屋はあります。

2名で動かしている部分、たくさん子どもたちが入ってくると、それだけ目が届かなくなってしまう部分があります。

人選というか、人材もなかなか難しく、引き受けてくれる方がいないという状況で、今後もその部分で課題があります。

予算も付けて頂けて、それなりの人がいて、協力しますよという人がいてくれれば、他の空いてる部屋もありますので、それを活用しながらできないことはないという状況です。

## ○南委員

きめ細かな相談というか、やってあげたいなっていうのも。色んなところで虐待とか、話は別ですけど、虐待とかの情報を聞いたときに、うちはどうなんだろうって思うことがあるもんだから。ありがとうございます。

## ○西村町長

よろしいですか。ほか何か。

## ○義盛委員

これをこの場で聞くことなのかどうか、基本的なことをお伺いするんですけど、高等養護学校、今度新たに小学校、中学校併設という形で進みますけれども、これは道立ですよ。たまにそのことについて、私もお話聞くこともあるんですけど、教育委員会はどういうふうに関わっていくべきなんでしょうね。

## ○山田教育長

相談しながらでしょうね。基本的に道の直轄になりますので、こっちからあまり口、手を積極的には出せないですけど、同じ特別支援の義務部として、町内の学校とは、交流したり、関わったりってことは当然必要でしょうし、教員同士の交流も必要になってくると思うんです。



ただ、向こうは今のところ開校だけで精一杯な状態なので、その後、子どもたちを受け入れて、その後の体制を整えていくっていう形になるんじゃないでしょうか。

因みに人事については、全部道立から引っ張ってくるというのも難しいですし、管内から全部吸い上げられたら、今度は管内の特別支援がもたなくなるので、ある程度力量のある教員を管内から吸い上げ、尚且つ、今、中標津高等養護にいる義務出身の先生方をそっちに入れてというようなことで、うまく調整しようという話はしています。

それには、根室教育局も関わってますので、ここで人選失敗すると、学校自体がうまくいかなくなるので、情熱があって、力量があって、高等養護との調整、町内の町立の学校との関係づくりもうまくできる、そういうような教員をできるだけ配置したいなと、まずはそこからだなという話はしています。

#### ○義盛委員

というのは、積極的に町としても誘致したっていう事実がある以上、どういうふうに私たちがどこまで踏み入るべきなのかなっていうのが分からないので。

例えば、卒業式なんかも、入学式、卒業式っていうことでも、去年は僕も出席させてもらいましたけれども、ああいうのは道立だから、そうすると、中標津町高校と同じような関わり方になるんですか。

#### ○山田教育長

今年度は3つ全部同じ日です。

#### ○義盛委員

1日の日。

#### ○山田教育長

卒業式、確か。

#### ○義盛委員

そういうのは、分かれていくべきですかね。

#### ○山田教育長

できれば、分かれて行った方が良いのかなと思うんですけども。

例えば、中標津高校であれば、町長は町立の農業高校に行きますし、副町長、部長が行って、こっちも誰か行くという形になっているんですけど、議員さんなんかもね、色んなところに行って様子見てもらえれば一番良いのかなと思って、そんな話も総務文教の方々とはお話をしているんですけど。

**○義盛委員**

今日、僕、農高の卒業式、出席で出してしまったんですけど、変えた方がいいかもしれませんね。案内があれば。

**○山田教育長**

そうですね。

**○義盛委員**

道立高校っていうのは、町教委としては、どこまで接触できるのか、分からないですね。

**○山田教育長**

去年あたりから、接触回数は増やしています。校長会議とかにも校長先生たち、以前は全く来なかったんですが、来てもらうようにして、色んな情報交換するようにしてますから。一気にがんとはいかないですけど、道立も含めて幼小中高全部つながるように考えていかないといけないと思ってるんです。そこはこれから先、少しずつ進めていきたいと思ってます。

**○義盛委員**

分かりました。

**○山田教育長**

校長先生たちも非常に積極的です。協力もしてくれます。中標津の子どもたちをいかに育てるかっていう面では一致できますので。

**○義盛委員**

一番コミュニティ・スクールとしてあるべき学校なのかなっていうふうに僕自身は思っているので、地域が寄り添うような学校であるべきかなと思いますので。距離感ということ、すごく気にはなるんですけど、分からないっていう状況だったんで。

**○山田教育長**

学校っていうのは、種別が、校種が上に行けば行くほど排他的になりますからね。それをいかにそうでなくしていくかっていう、そこがこれからでしょうね。ただ、高校もあんまり地域や保護者が介入すると、子どもたちが嫌がるという難しい面もあるので、一律にはいかないと思います。

**○義盛委員**

お互い手探りなところもありますね。分かりました。ありがとうございます。

**○西村町長**

そのほか、いかがですか。

**○南委員**

閉校になった学校の跡地っていうんですか、そういうものの今後の活用、壊さなきゃいけないっていうのは、分かるんだけど、地域の方から何とかしてほしいっていう要望ってないんですかね。

**○西村町長**

ありますね。

**○南委員**

それに対して。

**○西村町長**

できるものと、できないものがあります。この件につきましては。

例えば、養老牛の学校ですけど、我が母校でありますけど、残念ながら使い道がない。地域の方もちょっと無理だねってことで、取り壊しになるというのはあります。

また、開陽みたく、何か利用はというように投げかけると、民間の会社の方が来て、きのこ栽培で使いたいということで、グラウンドも含めて全部使いたいという話になって、今、現実的に使っている。

それぞれの学校、そういう募集をしたりですね、また、老朽化している部分があったりしますので、直接貸し出すのが良いのか、どうなのかを含めて検討しなければいけないというのはありますし、ケースバイケースでやっておりますし、利用が増える場合もあります。

決して頭から知らない、ダメよということではなく、なかなか先立つものもございますし、あまりに高い要望ですと、なかなかお聞きしにくいかなという感じもありますけど、できる範囲で利用の方はなるべくできるように、お互いの意見を調整しながら、進めているというような感じであります。

#### ○山田教育長

ただ、やっぱり完全に譲渡してしまえばいいんですが、貸すよということになると、教育委員会の財産でお金がどんどん掛かるというのがあるので、そこもすごく難しいんです。

貸すとなると、可能な範囲でというと、電気も使わせろ、水道も使わせろ、どこどこも使いたい、ここも使いたいってなってくると、非常にお金の面で、教育委員会は苦しくなりますので、安易に首は振れない部分もあるんです。管理課長何かあれば。

#### ○管理課長

武佐の方からの要望は、ご紹介したかと思うんですが、取り壊して地域の会館を建てるとか、そこに郷土館というか博物館を置けとか、あと他に公園にしてほしいとかという要望を頂いてるんですが、まず壊すのが先なので、もうちょっとお待ちください。壊した時にまた相談させていただきますという返答をさせていただいています。

今後、俵橋も出てきますので、俵橋の体育館は、結構地域の方がご利用になってますので、その要望がどんな形で出てくるのかというのは、今後閉校に向けて協議していかなきゃならない部分かなと思っています。

#### ○山田教育長

全道的にみると、最初の何年間はいいいんです。結構使ったり、集まったり、10年境にどこもだんだん足が遠のき、廃墟と化し、朽ち果てるという例が多いですね。

だから、基本的には、有効な活用が将来的に見こせない限りは、順次取り壊していくのが一番良いとは思っています。

#### ○西村町長

地域の人口も減りますし、施設も古くなるということで、そんなような状況にならざるを得ない、それが現実という感じがしております。

### ○南委員

公共団体の利用料金も一杯上がるようだし、そうなったら地域の人とか、こっちに出てくるより、身近なところに集まれる場所があると良いのかなって思ったりしながら、でも目的外使用になっちゃう訳だから。

### ○西村町長

積極的に使っていただけるっていう話があれば、それはそれで、リクエストにはお答えする。

そのほか、いかがでしょう。大体よろしいですか。

それでは、またの機会にご意見を聞かせて頂きたいと思いますので、会議の方はこれで閉めたいと思います。

### ○管理課長

それでは、閉会にあたりまして、教育長よりご挨拶を申し上げます。

### ○教育長

熱心な議論、ありがとうございました。ご意見もたくさんいただきました。ここにいる皆さんで中標津町の教育のために、更に力を合わせていければ良いなというふうに考えています。

子どもたちの未来はここにいる方々全員の力でつくっていくという思いを持っていただいて、それをたくさんの方に広げていただければ良いかなというふうに思います。

町としても教育委員会としても一生懸命に頑張りたいと思います。今後ともどうかよろしくお願いします。本日はどうもありがとうございました。